

2023年度 支援学校 仙台みらい高等学園 第1回学校評議委員会

- 日 時 2023年5月26日(金)午後3時～午後4時
- 参加者【本校】 檜村、藤原、菅野、久田、松寿、下村、栗原、中野、福田、会津、青山
百井、大堀、和泉、川崎、鈴木

【評議委員】以下参照

【オブザーバー】以下参照

- 会 場 支援学校 仙台みらい高等学園 寄宿舍食堂

●内 容

1 校長挨拶(檜村)

- ・完成年度を迎える。石の上にも三年の年にしたい。
- ・授業で専門学校の先生たちの知識(素晴らしさ)を生徒たちに伝えられる素晴らしい環境である。
- ・引き続きご助言、ご指導のご依頼。

2 評議委員紹介

- | | | |
|---------------------------|----|---------|
| ・宮城教育大学大学院 教育学研究科高度教職実践専攻 | 教授 | 水谷 好成 様 |
| ・全国農業協同組合連合会 耕種総合対策部 | 次長 | 岩田 和彦 様 |
| ・社会福祉法人共生福祉会 萩の郷福祉工場 福祉部 | 部長 | 高橋 康弘 様 |
| ・仙台市青葉区荒巻町内会 | | 菊地 希壽 様 |
| ・株式会社ガモウ 広域エリア営業部 東北エリア | 統括 | 井上 英治 様 |

3 オブザーバー紹介

- | | | |
|---------------------|------|--------|
| ・仙台医療秘書福祉専門学校 | 副校長 | 武藤 洋和 |
| ・仙台スイーツ&カフェ専門学校 | 副校長 | 佐々木 成史 |
| ・仙台リゾート&スポーツ専門学校 | 教務課長 | 寺澤 正典 |
| ・仙台ビューティーアート専門学校 | 教務課長 | 蒲生 康子 |
| ・仙台こども専門学校 | 教務課長 | 伊勢 泰和 |
| ・仙台ウェディング&ブライダル専門学校 | 教務課長 | 石川 孝紀 |
| ・仙台広報室(入学相談室) | 部門長 | 芹田 健志 |
| ・飛鳥未来きずな高等学校事務局 | 事務長 | 大井 香織 |

4 学校運営について(藤原)

- ・本年度に向けてスクールポリシーを設置。
- ・社会を生き抜く。つなぐ。社会を明るくする生徒になってほしい。
- ・職業訓練だけが目的ではなく、青春を謳歌する場であってほしい。

本校の教育について（学校運営計画P4-5）

グラデュエーション・ポリシー〈目指す人材育成像〉

- (1) 多様性を尊重しながら究めた強みを活かすことで、社会を生き抜く生徒
 - (2) 就労への感謝と向上心を忘れず、全力で役割を全うすることで、社会をつなぐ生徒
 - (3) ワークライフブレンドを実現し人生を楽しみ輝くことで社会を明るくする生徒
- ### カリキュラムポリシー〈目指す人材育成像〉

- (1) 学習指導：「好き」「得意」を究められるようアセスメントに基づく
- (2) 進路指導：究めた力を活かせるよう適性やニーズに応じた現場実習と職業指導
- (3) 生徒指導：社会で輝けるよう「生きる力」の醸成を目指し、教科学習を汎化、反復できる機会

アドミッションポリシー〈求める人物像〉

- (1) 素直な心・感謝の気持ち・高い意欲を持ち続ける生徒
- (2) 主体的に考え、行動し、成長することを目指している生徒
- (3) 自分の「好き」を究めるよう、学ぶ意欲を持っている生徒

2023年度重点目標

- (1) キャリア形成に視点を当てた学習活動と進路指導の推進
⇒アセスメントに基づく個別の適切な支援・指導の推進と発展
- (2) スムーズな移行支援と定着支援
⇒定期実習とデュアルシステムの連動による切れ目のない実践、連携の推進
⇒実践につながる移行支援会議と卒業後の定期的な情報共有及び支援
- (3) 余暇活動・地域支援の充実
⇒部活動における部活動指導員の活用と余暇活動充実による生活の質の向上
仕事と仕事以外の線引き、地域とのつながり、地域で生活すること。

【在籍生徒数】

本科1年生：22人 本科2年生：7人 本科3年生：17人 専攻科1年生：2人
専攻科2年生：6人 合計54人

※今年度専攻科1・2年生のクラスを複式編成としている。

【コース別】（本科2、3年生・専攻科2年生）

芸美：2人 食農：13人 福祉：3人 サービス：12人 合計30人

5 各分掌部 重点目標について（学校運営計画 P 25-45）

【教務部】（久田）

- アセスメントを活用した支援をすることで就労後に必要な力を各教科の学習活動で理解できるよう指導を行う。
- 定期検診後における、受診勧奨対象者の再受診率を 45%とする。

【生徒指導部】（下村）

- 部活動指導員を活用し、余暇活動を充実させることでワークライフブレンドの実現につなげる。
⇒ 地域移行支援を充実させていく。
- 生徒の活躍、成長する場面を設けるため、生徒会を中心とした生徒主体の活躍機会を増やす。

【進路部】（中野）

- 生徒保護者のニーズを基に移行支援会議、定着支援を実施し、各機関の役割を明確にする。
- プロフェッショナルトレーニング、デュアルシステムの運営計画を完成年度版として確立させる。
- 指導内容の統一が実践できる進路指導マニュアルを作成する。
 - ・ 移行支援について
⇒ 学校として 3 年間定着指導を行い、徐々に地域の関係機関を利用し豊かな社会生活を送れるように、支援の主体を移行させていく。
 - ・ 進路指導マニュアル作成について
⇒ 全教職員が統一した進路指導を行うことができるようマニュアル作成を行う。

【地域支援部】（福田）

【支援】

- 教職員と心理師、月 2 回以上、対面での行動観察 FB を実施する。
- 年 2 回以上、寄宿舎生及び希望者は地域交流の場へ参加する。

【研究】

- 年間を通し、抽出生徒 2 人のケース会議を行う。
- 教職員の内部研修を実施する。
- アセスメントを基にしたケース検討、研究授業を実施する。
 - ・ 心理師が授業の様子や寄宿舎生活を見て、行動観察を実施。それを基にケース検討やケース会議を行い、支援について考えていく。また、本年度は 2 人の生徒に絞って教職員の支援の方向性を明確にし、より中身の濃い検討会が期待できるとともに、本校の研究アセスメントを根拠として教職員が行っている支援を明文化させていきたい。

【防災環境整備部】(栗原)

- 地震や火災等に備えた避難訓練を通して防災、減災の意識を高める。
- 校内環境の整備を行う。(駐車場管理も含む)
- 整備、緑化活動や身近な場所、物等の整理整頓を行い校内美化、校内緑化に努める。
 - ・年4回の避難訓練を実施。
 - ・不審者対応については日常の中でも指導を行っている。
 - ・月一回安全点検を実施。
 - ・学習の一貫として花壇の手入れや清掃道具の点検等を授業の中に組み込んでいる。(サービスクース)
 - ・生徒が気持ちよく取り組める環境づくり、自らの命を守れる生徒を目指す。

【事務部】(久田)

【教務事務】

- 出席簿・学生管理入力、受発信業務の間違いを無くす。
- 生徒、教職員全員がタブレットを活用できるよう整える。

【経理事務】

- 学費・経費の間違いを無くす。

【舎務部】(会津)

- 卒業後の生活を想定した自立に向けた支援を実施する。各ケース担当から定期的に生徒状況を上げ、アセスメントに基づいた支援ができているか検証を行う。
- 部活動と寄宿舎の余暇時間を連動させ、卒業後に地域の各サービスへスムーズな移行ができるように取り組む。
 - ・今年度寄宿舎生：31人
 - ・生徒の理解、認知の仕方を見極めながら、一つでもできることを増やし、自信につなげてもらう。
 - ・一つでもできることを増やし、自信につなげてもらう支援を行っていく。

【広報部】(会津)

●動員対策・歩留まり対策

- ・HP(SNS)をうまく活用し、本校の生徒が様々な場で活躍している様子を積極的に発信し、PRしていく。

6 質疑

【水谷様】：今年度の寄宿舎での余暇活動の計画について

⇒年間を通して、各行事を計画、実施予定。7月には納涼祭を計画している。また、これ

から自治会活動が動き出すことで、生徒主体で取り組む活動を増やしていきたい。

7 指導助言

【水谷様】

- ・連携が増えている。今後も計画的に強化してほしい。
- ・進路選択を間違ってしまった子の新たな学びの場となっている。そのような生徒たちが入学して学校生活がうまくいっていますというアピールを積極的に行ってほしい。
- ・避難訓練の場面設定を増やすことで社会に出た時に役立つ。

【岩田様】

- ・3年目の完成年度を迎えるにあたり、今までの地道な努力を感じる。完成年度、就職率に期待している。
- ・「農福連携」の観点で今後さらに福祉の方の活躍の場が増えてくる。『もっと働くところがあるんだよ』と先生たちからもPRしてもらおうとともに、一緒にPRしていく努力をしていきたい。
- ・6月7日 JA 施肥診断担当者養成講習で、JA 職員が圃場を使わせてもらうことに感謝している。

【高橋様】

- ・結果を残すことが重要。今年度、就職の結果を残すことが次年度の入学者につながる。期待している。

【菊地様】

- ・農業人口が減少している。デジタル化され、人がいなくなる中で「今の農業を維持していくためには」ということを考えていかなければならない。
- ・生徒たちには相手に押し付けるのではなく、相手の気持ちを考えられる人であってほしい。

【井上様】

- ・生徒たちが表情豊かに授業に取り組む姿が印象的だった。ぜひ今後現場で活躍してほしい。
- ・美容業界での就職となる場合、バックオフィスではなく、カウンセリングや現場でのお客様とフェイス to フェイスでのコミュニケーションの仕方等も大切になってくる。
- ・生徒のみなさんにも業界のトレンドをお伝えする場を提供していきたい。

8 教頭挨拶（菅野）

- ・生徒一人ひとりの強みを生かす。生徒たちがどんなことが好きで、どんなことなら頑張れるか。野球に例えると担任が監督。輝ける生徒を送り出す。
- ・障害の特性において、一度身に付けたことでも環境が変わるとできなくなる場合もあ

る。

- ・ 教員側の専門分野の知識、支援方法が重要。
- ・ 完成年度を迎えるにあたり、引き続きご助言、ご指導いただきたい。